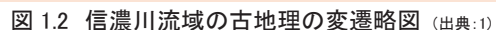


北アルプスの成り立ちをとらえるには少し視野を広げ、時間をさかのぼる必要があります。千曲川、信濃川、日本海まで目を向け、時代も日本列島の形成が始まった 2100 万年前までさかのぼります。



約1200 万年前になると、地下のマグマが上昇し、諏訪湖、美ヶ原、志賀高原、谷川岳といった部分が隆起し、いままで海だったところが陸となりました。



約 80 万～70 万年前は新生代第四紀の後半で、気温が低下して森林限界も標高 1, 100m (現在 2, 500m) あたりでした。そのため、山では露岩が多くなり風化や浸食が盛んな時代でした。



約 40 万～30 万年前になると日本列島全域で地殻変動が激しくなり、隆起したり沈降するところがありました。千曲川、信濃川流域では、関田山地や飯綱・黒姫・妙高等の火山活動が活発になり上流側の県境あたりが隆起しました。このため千曲川は北流できなくなり、北東側の新潟の方に流れるようになりました。また、沈下したところでは土砂が堆積して、松本盆地、長野盆地、飯山盆地が誕生していききました。

■1.8 万年前 下流に土砂がたまり平野を形成 川からの多量の土砂がたまり越後平野誕生

約 1.8 万年前頃からは越後平野の形成が始まります。その頃は最終氷期で、海水面は現在より 120m ほど低い時代でした。海水面は気候の温暖化によりしだいに上昇し、信濃川や諸河川から海に流れ込む土砂により埋め立てられ、現在のような越後平野ができあがりました。

【コラム】 大町・松本一帯の地形

長野県側に目を向けてみると、高い山は隆起した場所、低いところは隆起しなかったところ、もしくは沈降した場所、そこに土砂が溜まって平地ができた地形として読み解くことができます。



図 1.3 北アルプス～松本盆地一帯の地形鳥瞰図 (出典:2)

泉小太郎伝説

大町ダム付近の尾入沢には泉小太郎伝説が伝えられています。

昔、安曇野から松本平にかけては、大きな湖でした。湖の主の犀龍と山向こうの池の白龍王との間に生まれた日光泉小太郎は、湖の畔に住む老夫婦に人間の子として育てられました。

小太郎は、湖の水をなくし人々の住める豊かな郷土をつくりたいと願っていました。その後、ここ、大町ダムのできた尾入沢で再び逢った親子は心が通じ合い、犀龍は背中に小太郎を乗せ、山清路の岩を打ち破って湖の水を日本海へ落とし、この地を豊かな平野にしました。

この伝説と、実際の地殻変動や河川の浸食・土砂堆積作用による地形の成り立ちは、不思議なことによく似ています。



図 1.4 犀龍と泉小太郎 (出典:3)